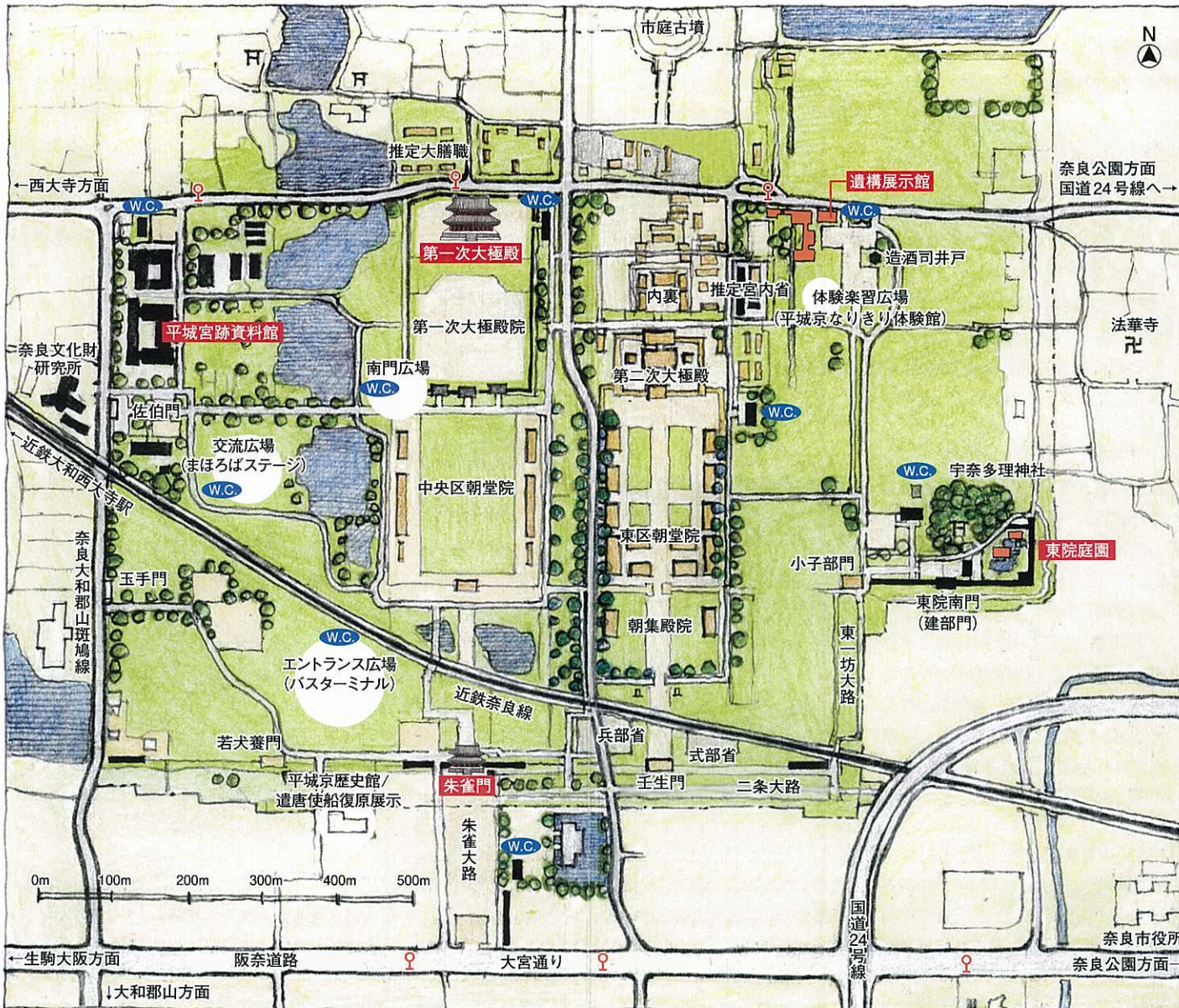


世界遺産／特別史跡

# 平城宮跡ガイド

公開施設 **入場無料**

- ・平城宮跡資料館・遺構展示館・朱雀門
- ・第一次大極殿・平城宮東院庭園



協力：NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク

- 施設公開：9：00～16：30（ただし入館は16：00まで）  
※平成22年4月24日～11月7日は平城宮跡にて平城遷都1300年祭が開催されています。  
期間中は曜日等により施設公開時間が17：30まで延長される場合があります。
- 休館：月曜日（月曜が休日のときは火曜日）年末年始（平成22年4月24日～11月7日は全館無休）
- お問合せ：電話0742-30-6752・6753・6756  
Eメール jim@nabunken.go.jp
- http://www.nabunken.go.jp



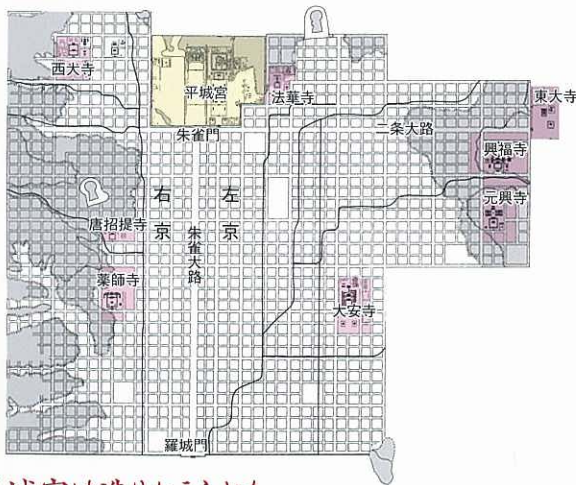
●交通：近鉄大和西大寺駅東へ徒歩15～30分 奈良交通バス・近鉄JR奈良駅～西大寺

独立行政法人 国立文化財機構  
奈良文化財研究所

## ■ 平城京と平城宮

和銅3年(710)、飛鳥に近い藤原京(奈良県橿原市)から奈良盆地の北端に新しくつくられた平城京に都が移されました。

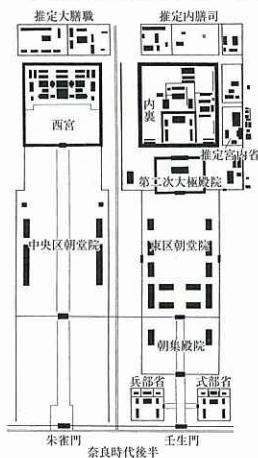
唐の長安をモデルにして設計され、南北約5km、東西約6km、都の中央北端には政治の中心となる「平城宮」が造られました。平城宮は約1km四方の広さで、大極殿や朝堂院などの宮殿のほか、天皇の住まいである内裏があり、周囲には国の役所が立ち並んでいました。



## ■ 平城宮は造りかえられた

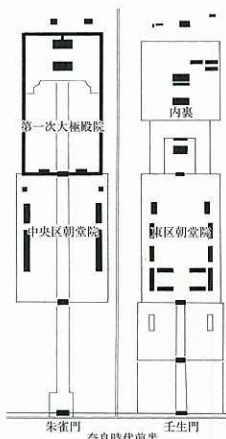
都や宮殿は遷都から、かなりの年月をかけて完成しました。奈良時代は74年間でしたが、聖武天皇が5年間、留守にして再び平城京に戻ってきたあとに宮殿は大きく造り変えられました。

復元された朱雀門や大極殿は奈良時代の



前期のもので、聖武天皇が恭仁京など転々として再び平城宮に戻ってきた時につくり直したのが東の区画の第二次大極殿や朝堂院です。

平城宮跡は奈良時代前期の区画(朱雀門、朝堂院、大極殿)と後期の区画(第二次大極殿、朝堂院、朝集殿)が東西に並んで整備されています。



## ■ 朱雀門



れ、合計12の門がありました。朱雀門は平成10年に復元されました。

朱雀門の規模は間口25m、奥行10m、高さ22m、二重の屋根で他の門より特に立派に造られていました。

門の南にある広場は朱雀大路の一部を復元したもので、門のすぐ前を東西に二条大路が横切っています。

## ■ 大極殿の復元

「大極殿」は宮殿の中でも最も重要な建物で、即位の儀式や元日の朝賀には天皇の玉座である「高御座」が置かれました。

間口44m、奥行20m、屋根の高さ27mで平城宮の中でも最大の建物です。復元に際しては発掘調査のデータや現在残っている奈良時代の建物など参考に多くの専門家が研究して、平成13年から9年の歳月をかけ「平城遷都1300年」の平成22年に完成しました。

## ■ 第二次大極殿と内裏



城宮跡を発見するきっかけとなりました。その後、地元の植木職人、棚田嘉十郎が生涯をかけて保存運動に取り組み、今日の礎を築きました。

第二次大極殿の北側の植込みがある一帯は天皇の住まいである「内裏」跡です。内裏の東に復元されている檜皮葺きの建物は宮内省と推定されている役所です。



天平17年(745)、聖武天皇は紫香楽宮から平城宮に戻って新たに大極殿を造りました。これが「第二次(後期)大極殿」です。

この大極殿や南の朝堂の土壇が残っていて、明治時代の終わりに建築史家の関野貞が平城宮跡を発見するきっかけとなりました。その後、地元の植木職人、棚田嘉十郎が生涯をかけて保存運動に取り組み、今日の礎を築きました。

## ■ 東院庭園

平城宮の東に張出した部分は「続日本紀」にみえる「東院」にあたります。昭和42年、その南東隅に大きな庭園の遺跡が発見され、平成7年から10年にかけて復元されました。これが「東院庭園」です。

東西80m、南北100mの敷地の中央に複雑な曲線の池と周囲にいくつかの建物がありました。称徳天皇はこの近くに「東院玉殿」を



建て、宴会や儀式を催しました。現代の迎賓館にあたるものです。前期は大陸風庭園で、後期に日本風庭園に造りかえたことが分かりました。

## ■ 平城宮跡資料館

平城宮跡は奈良文化財研究所が昭和34年から毎年計画的に発掘調査をしていますが、その成果を総合的に分かりやすく展示しているのが「平城宮跡資料館」です。

役所と宮殿の内部を実物大で再現し、発掘調査の出土品を展示しています。

ミュージアムショップや休憩室もあります。



## ■ 遺構展示館

発掘した状態(遺構)をそのまま見ることができるのが「遺構展示館」です。3棟からなり、北棟では奈良時代に4回も建てかえられた建物の柱跡、北棟や



中央棟では大型の復元模型や発掘された大きな井戸、南棟は大量の磚(古代のレンガ)を敷きつめたためずらしい建物跡を見ることができます。